

令和2年度 金沢医科大学看護学部 卒業生就職先に対する面談調査結果

令和2年度、本学部は開設から13年目を迎え、669名の卒業生を県内外の医療機関等に輩出いたしました。今回、本学部の教育理念、教育目標達成に向け、教育課程の検討、改正に向けての教育評価の一環として卒業生の就職先からの評価を得るために、看護学部卒業生の就職先に対する面談調査を行いました。今回の結果をもとに教育評価を実施し、教育課程の評価並びに教育課程の改正における基礎資料とし、本学部の看護学教育の更なる充実を目指していきたいと考えております。

1. 実施方法

第6期生(平成27年度卒)から第10期生(令和元年度卒)の過去5年間の卒業生の「就業・進路先一覧」で3名以上を採用している医療機関8施設を対象機関とし、対象機関の看護部長もしくは教育担当者に対し、2020年8～2020年9月の間で、教務委員が面談(訪問・電話等)を実施した。

2. 面談結果

1) 卒業生の在職状況

第6期生(平成27年度卒)から第10期生(令和元年度卒)の過去5年間の卒業生について、2020年8月～2020年9月時点の在職者数の確認を行った。過去5年間の卒業生就職先の医療機関8施設の在職率は、全体で79.1%、就職先別では33.3～100%であった。離職理由は、奨学金返済免除3年間の就業後に退職者が多く、理由は結婚、地元に戻る、家族の転勤等とのことであった。また、出産後に退職する者もいるが、結婚・出産後も在籍している者も多いとのことであった。

2) 卒業生の活躍状況、本学部への期待等

各就職先から、卒業生の活躍状況や本学部の教育への期待等について尋ねた結果は、以下のとおりであった。

① 本学部卒業生の良いところ

- ・「穏やか」、「感情的にならない」、「真面目」、「一生懸命取り組む」、「患者・家族に優しい」、「丁寧に接する」、「寄り添って話を聴く」、「学習意欲があり主体的に参加する」、「コミュニケーション力がある」、「疑問点について確認・相談ができる」、「意見やアドバイスをよく聞く」、「情報収集を行い熟慮して適切な対応を導き出す」等の発言が多く聞かれた。
- ・主体的に学ぶ姿勢があり、研修会等には積極的に参加している。
- ・看護研究や事例研究、院内研修レポート等、文章をまとめる力がある。
- ・個人によって成長のタイミングは異なるが、確実に成長し、リーダーや師長代行などを努めている。

- ・院内の各種委員会に主体的に参加できている。
- ・配属部署に応じて必要となる治療や看護の学修に取り組んでいる。

② 活躍状況

臨床経験年数やラダーに応じて、また配属部署、専門領域における看護師、助産師等の役割について「できている」と評価されていた。

③ 身につけて欲しい点や課題として

「想像力」、「働きかけ力」、「発信力」及び「行動力」、具体的な事項としては、「業務上の指導・助言を受けた時に乗り越える力」が挙げられた。

④ 本学部教育に関する要望、卒業生に身につけてほしい能力

「挨拶」、「コミュニケーション力」、「発信力」、「想像力」等が挙げられた。

3. まとめ

医療機関 8 施設のご協力により、過去 5 年分 296 名の卒業生の在職状況と活躍状況を調査することができた。

全国的な新人看護師の離職率等のデータと比べると本学の卒業後 5 年間の離職率は低く、定着率が高いと評価できる。調査した医療機関のうち 2 つの医療機関は奨学金制度により 3 年間の就業により奨学金が免除される仕組みがあり、3 年目以降の退職の理由のひとつとなっているようであった。今後は、3 年間経過(現在 4 年間継続勤務に移行)後も、就業を継続し、様々な役割をとる、専門性を磨く等、キャリアアップにつなげていけるような看護基礎教育での関わり、また、新たな就職先での活躍等も調査する機会が必要と考える。

卒業生の活躍状況は、本学部の教育目標『豊かな人間性と倫理観』、『看護学の知識と技術及び実践力』、『地域志向を視野に入れた専門性の獲得』、『生涯学習能力』と関連しており、本学部の教育課程は、ある程度評価できるものであったと考える。ただし、『国際的視野の獲得』は、コメントが挙がっていなかった。いずれの医療機関も外国人患者の受け入れをしていると推察されるので、今後は国際的視野に関する事項についても調査し、本学部の教育課程の評価を行いたい。

身につけて欲しい点や要望などからは、主に職場での業務に対する主体性や他者に働きかける力に関する内容がみられた。「真面目」「穏やか」「丁寧」といった人間性を評価される一方、「主体性」に乏しく、「創造力」、「働きかけ力」、「発信力」、「行動力」の不足の一面もあるようである。今後、学生の主体性や芯の強さの育成は、本学部の課題として、さらに各科目で教育方法の工夫が求められる。また、助言や指導を受けたことを内省し、自らの課題として発展させる自己管理能力を獲得させるために、実習科目をはじめ各科目での学修成果に対するフィードバックをより充実させることが課題である。